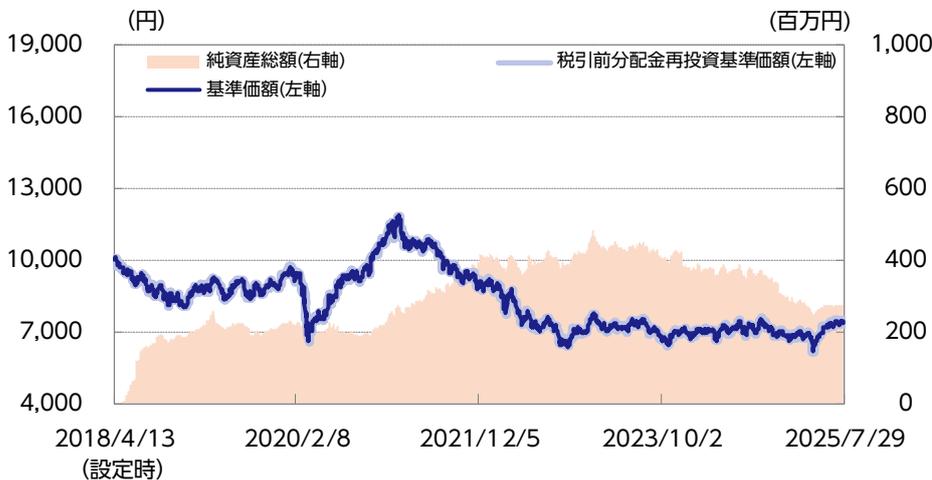


## 運用実績 Aコース限定為替ヘッジ

### 基準価額・純資産の推移



### 基準価額および純資産総額

基準価額	7,321円
前月末比	-128円
純資産総額	269百万円

### 分配の推移（1万口当り、税引前）

期	年月	金額 (円)
第1期	2018年12月	0円
第2期	2019年12月	0円
第3期	2020年12月	0円
第4期	2021年12月	0円
第5期	2022年12月	0円
第6期	2023年12月	0円
第7期	2024年12月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

### 基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	-1.7%	7.8%	6.7%	5.3%	-0.4%	-26.8%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

### 組入比率

コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド （野村SMA・EW専用）限定為替ヘッジあり（適格機関投資家限定）	99.3%
ニッセイマネーマーケットファンド（適格機関投資家限定）	0.0%
短期金融資産等	0.7%

※対純資産総額比

運用実績 Bコース為替ヘッジなし

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	12,856円
前月末比	224円
純資産総額	813百万円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第1期	2018年12月	0円
第2期	2019年12月	0円
第3期	2020年12月	0円
第4期	2021年12月	0円
第5期	2022年12月	0円
第6期	2023年12月	0円
第7期	2024年12月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.8%	14.0%	5.4%	8.2%	30.2%	28.6%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は実質的な信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

組入比率

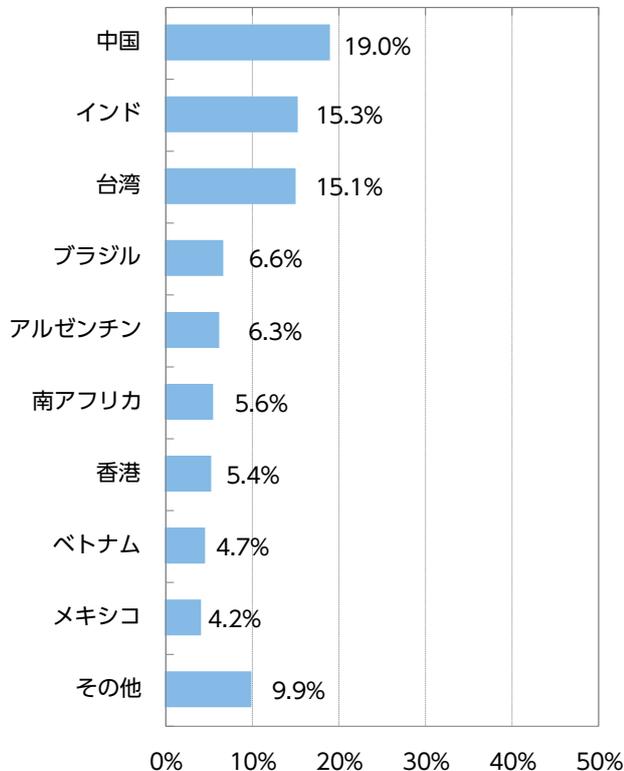
コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド （野村SMA・EW専用）為替ヘッジなし（適格機関投資家限定）	99.8%
ニッセイマネーマーケットファンド（適格機関投資家限定）	0.0%
短期金融資産等	0.2%

※対純資産総額比

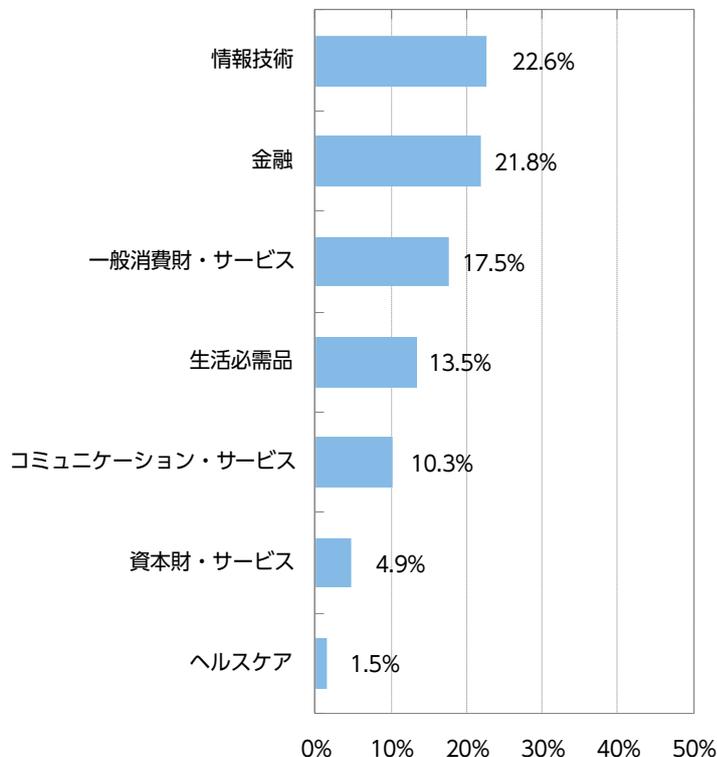
投資対象ファンドの状況

※投資対象ファンドの状況は、当ファンドが主に投資対象とする「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド（野村SMA・EW専用）限定為替ヘッジあり（適格機関投資家限定）」および「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド（野村SMA・EW専用）為替ヘッジなし（適格機関投資家限定）」のマザーファンドの状況を表示しており、以下の表およびグラフ中の数値は、同ファンドの運用会社である、コムジェスト・アセットマネジメント株式会社の資料（現地月末前営業日基準）に基づきニッセイアセットマネジメントが作成しています。

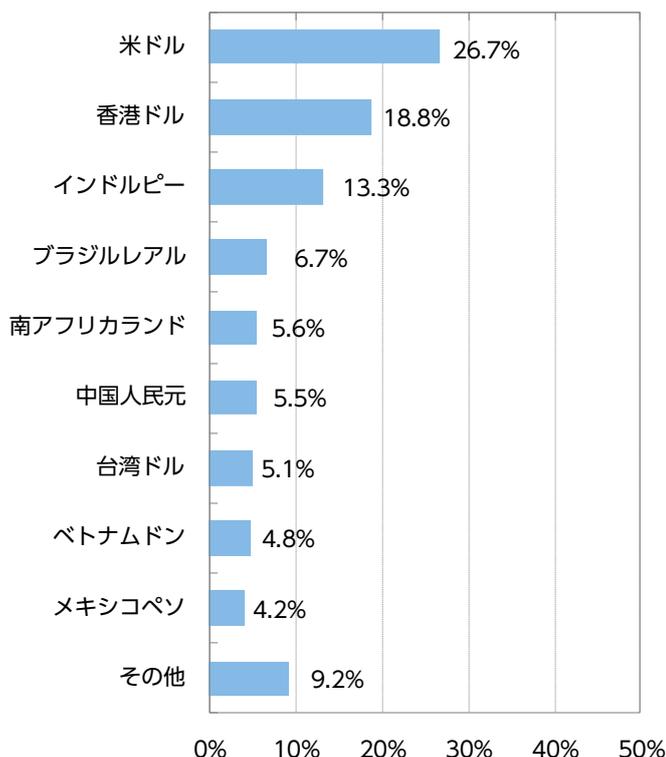
国・地域別組入比率



業種別組入比率



通貨別組入比率



※国・地域はコムジェスト・アセットマネジメント株式会社の分類によるものです。（基本的にMSCI分類に基づいています。）以下同じです。  
 ※業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。  
 ※比率はすべて対純資産総額比です。

組入上位10銘柄

(銘柄数：37)

順位	銘柄	国・地域	比率	銘柄解説
		業種		
1	台湾セミコンダクター (TSMC)	台湾 情報技術	9.9%	世界最大の半導体受託製造メーカー。世界シェア約7割を有し、事実上、他の追随を許さない体制を築いている。潤沢なフリーキャッシュフローを活用し、毎年1兆円規模の大型設備投資を継続的に行うことで蓄積された、競合を寄せ付けない圧倒的な技術力により、高い参入障壁を堅持している。
2	テンセント・ホールディングス (騰訊控股)	中国 コミュニケーション・サービス	6.8%	SNS「微信 (WeChat)」やモバイルゲーム等を提供する中国の総合インターネットサービス企業大手。モバイル分野で圧倒的なシェアを誇る。「微信」で築いた顧客基盤 (月間ユーザー10億人以上) とブランド力を背景に、決済サービスやゲーム、クラウドサービスを展開。また、中国の電気自動車メーカー蔚来汽車 (NIO) 等、国内外の多岐にわたる新興企業等に積極的に投資。
3	メルカドリブレ	アルゼンチン 一般消費財・サービス	5.3%	南米最大のEコマース企業。18カ国で事業を展開。主な事業は、「MercadoLibre」のマーケットプレイス (電子取引市場)、電子決済の「MercadoPago」。物流およびフィンテックへの投資を積極的に実施。デジタル化・キャッシュレス化の恩恵を享受できると予想する他、利益率の改善にも期待。
4	デルタ電子	台湾 情報技術	5.1%	1971年設立。エネルギー効率の高い電源製品の世界的企業。台湾と中国を中心に北米、南米、欧州等に開発、製造拠点を有する。同社のサービスは、自動車業界の電気自動車 (EV) 化やセントリック電源システム等世界的な電源システムの構造変革のけん引役となっている。
5	ディスカバリー	南アフリカ 金融	3.5%	1992年設立。主にアフリカ地域で生命保険、金融サービスを提供。業界として革新的な保険商品である健康増進型保険「バイタリティ」を開発、欧米、アジアの大手保険会社と販売契約を締結し、展開。日本では住友生命、中国ではピンアン・インシュアランス (中国平安保険) 等と提携。
6	ネットイース (網易)	中国 コミュニケーション・サービス	3.5%	中国大手オンラインゲーム・フリーメール等のインターネットサービス運営会社。有力なオンラインゲームタイトルを多数保有する他、オンライン教育事業を手掛ける「有道 (Youdao)」、音楽配信サービス「網易雲音楽 (NetEase Cloud Music)」等を主力事業とする。
7	アンタ・スポーツ	中国 一般消費財・サービス	3.1%	中国のスポーツ用品製造・販売大手。自社ブランド「安踏 (ANTA)」の他、買収等を通じて機能性、レジャー、スキー、アウトドアスポーツを網羅する強力で多様なスポーツブランドポートフォリオを所有。同社は製品イノベーション (技術革新) により他の中国のマスマーケットスポーツウェアブランドとの差別化を続けており、スポーツ需要の高まりと人々の余暇におけるスポーツファッションの流行の恩恵を受ける。
8	HDFC銀行	インド 金融	3.1%	インド民間銀行最大手。中・高所得層の個人と企業を対象に、商業銀行業務、トレジャリー (資金管理) 業務などの幅広い銀行業務と金融サービスを提供。傘下のHDFCはインド国内における住宅不足解消と住宅保有率向上を目的に設立されたインド最大手の住宅専門金融会社。住宅ローンの低普及率、政府の支援策、人口動態、都市化、核家族化等の同国の長期的・構造的変化の恩恵を受けると考えられる。
9	AIAグループ	香港 金融	3.1%	アジア最大級の保険グループ。アジア太平洋の18の地域で事業を展開。まだ他社が進出できていない、成長が著しく保険のニーズが高まる多くの地域に進出しており、優れた代理店と商品群を持つ。アジア地域の中間所得層の増加と、貯蓄と補償へのニーズによる恩恵を受けると考えられる。
10	シュリラム・ファイナンス	インド 金融	2.6%	1979年設立。インド・ムンバイに本社を構える金融サービス会社。主に商用車ローン、消費者向けローン、株式仲介業、チャットファンド (共同積立制度)、および生命保険・損害保険商品や投資信託の販売など、各種金融商品サービスを手がける。

※比率は対純資産総額比です。

本資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。

ニッセイアセットマネジメント株式会社

※ 「当月の市況動向」、「ファンドの状況」および「今後の見通しと運用方針」については、コムジェスト・アセットマネジメント株式会社の資料（現地月末前営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが合理的と判断した上で作成しています。

## 当月の市況動向

当月の世界株式市場は、主要なグローバル企業の良好な業績動向や、米関税政策への不透明感の後退などから、上昇しました。

米国とベトナムが関税交渉で合意したことから他の国・地域とも協議が進展するとの期待が高まったことや、米政府が5月に導入した半導体設計ソフトの対中輸出規制の撤回や米エヌビディアが中国向け人工知能（AI）半導体「H20」の輸出再開を発表したことなどを受け、米中貿易交渉進展への期待などから、下旬までは緩やかに上昇する展開となりました。

下旬は、トランプ米政権が日本・欧州連合（EU）などとの関税交渉で合意したことや、米主要金融機関やテクノロジー企業をはじめ主要なグローバル企業の良好な業績発表が下支えとなり、上げ幅を広げ、月末を迎えました。

月間では新興国の株式は上昇しました。国・地域別では、台湾や中国が上昇した一方、ブラジルやインドが下落しました。セクター別では、ヘルスケアや情報技術が上昇した一方、公益事業や生活必需品が下落しました。

為替は、米利下げ観測の後退や、参議院選挙での与党大敗を受けた日本の財政拡張への警戒、投資家のリスク選好的な動きなどから円安となりました。

## ファンドの状況

半導体の受託製造を手がける台湾の台湾セミコンダクター（TSMC）は、引き続きAIサプライチェーン（供給網）における同社の重要性が評価されたこと等により、株価が上昇しました。一方、中古車販売を手がけるブラジルのロカリザ・レンタカーは、政府による新車価格を引き下げる税制改革の影響で中古車の価値が低下したこと等により、株価が下落しました。

業種別では、情報技術、金融の順に組入比率の高い運用となっています。

国・地域別では、中国、インドの順に組入比率が高くなっています。

（限定為替ヘッジ）

当月末の基準価額は、保有銘柄の価格が下落したこと等により、前月末比-128円となりました。

（為替ヘッジなし）

当月末の基準価額は、保有銘柄の価格が下落した一方で、為替市場において米ドル高円安となったこと等により、前月末比+224円となりました。

## 今後の見通しと運用方針

コムジェストの運用は100%ボトムアップアプローチ（個別企業の調査・分析から企業の将来性を判断し、投資判断を下す運用手法）であり、「市場見通し」につきましては発表していません。ただし、現状の新興国株式市場のバリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）は先進国と比較して割安だと捉えており、またクオリティーの高い銘柄に割安な水準で投資できるチャンスだと考えています。どのような市場環境においても、長期的に高い利益成長ができるクオリティー・グロース企業（質の高い成長企業）に選別投資していくというコムジェストの投資方針に変更はありません。

## 運用体制

原則作成基準日時点で入手しうる情報に基づきます。

2025年6月30日時点

運用責任者	笹岡 洋委智※
経験年数	30年
運用担当部	外部運用部

※当ファンドの実質的な運用は、コムジェストが行います。

## ファンドの特色

- ①主に新興国の株式に投資します。
- ②相対的に高い利益成長が持続すると見込まれる銘柄を、成長企業への長期投資で定評のあるコムジェストが厳選します。
- ③外貨建資産に対して、為替ヘッジを行う「Aコース限定為替ヘッジ」と、為替ヘッジを行わない「Bコース為替ヘッジなし」があります。

## 投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

### 基準価額の変動要因

- ファンド（指定投資信託証券を含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

### 主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	<p>〈Aコース限定為替ヘッジ〉                      実質的な組入外貨建資産については、原則として同資産を米ドル換算した額とほぼ同額程度の「米ドル売り／円買い」の為替予約取引を行い、円に対する米ドルの為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、円の金利が米ドルの金利より低い場合などには、ヘッジコストが発生することがあります。実質的な組入通貨のうち、米ドル以外の通貨については、米ドルに対する当該通貨の為替変動の影響を受け、一般に当該通貨が米ドルに対して下落した場合には、ファンドの資産価値が減少する要因となります。</p> <p>〈Bコース為替ヘッジなし〉                      実質的な組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。</p>
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。特に、新興国の経済状況は先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があり、ファンドの資産価値が大きく減少したり、運用方針にそった運用が困難になる可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

- 有価証券への投資等のファンドにかかる取引においては、その取引相手の業績悪化（倒産に至る場合も含む）等の影響により、あらかじめ定められた条件で取引が履行されないこと（債務不履行）が生じる可能性があります。
- 新興国の株式投資に関しては、以下の事項にご留意ください。  
金融商品取引所の取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます）、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態の発生\*による市場の閉鎖、流動性の著しい低下あるいは資金の受渡しに関する障害等）があるときには、ファンドの購入・換金の申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた購入・換金の申込みの受け付けを取消すことがあります。  
\*金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、クーデターや重大な政治体制の変更等。
- ストックコネクト\*を通じた取引に関しては、以下の事項にご留意ください。  
ファンドは中国A株への投資に際し、ストックコネクト（上海・香港相互株式取引制度および深セン・香港相互株式取引制度）を通じて行う場合があります。ストックコネクトを通じた投資は、取引や決済に関する特有の制限等で意図した取引等ができない場合、取引等に特有の費用が課される場合、ストックコネクトにおける取引停止や中国本土市場と香港市場の休業日の違いにより、中国本土市場の急変あるいは株価の大幅な変動時に対応できない場合等には、ファンドの資産価値が減少する要因となることがあります。また、ストックコネクトでは、投資者が不利益を被る大きな制度変更が行われる可能性があります。  
\*ストックコネクトとは、ファンドを含む外国の投資家が、上海証券取引所および深セン証券取引所の中国A株を香港の証券会社を通じて売買することができる制度です。なお、中国A株とは、主な投資家として中国居住者を想定しているものですが、一定の条件のもとでファンドを含む外国の投資家にも投資が認められています。

## 分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。  
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

## ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの純資産総額に年率0.286%（税抜0.26%）をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。</p> <p>なお、各ファンドが投資対象とする「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド（野村SMA・EW専用）限定為替ヘッジあり（適格機関投資家限定）」および「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド（野村SMA・EW専用）為替ヘッジなし（適格機関投資家限定）」（以下「エマージングマーケット・ファンド」ということがあります）では、以下の通りエマージングマーケット・ファンドの純資産総額に応じて信託報酬率が定まり、運用管理費用（信託報酬）がかかります。また、ニッセイマネーマーケットファンド（適格機関投資家限定）の信託報酬率は、上限を年率0.22%（税抜0.2%）とし運用管理費用（信託報酬）がかかります。</p> <p>投資対象とする指定投資信託証券の運用管理費用（信託報酬）を含めたファンドの実質的な運用管理費用（信託報酬）は、ファンドの純資産総額に<b>最大で年率1.243%（税抜1.13%）程度</b><sup>*1</sup>をかけた額となります。</p> <p><sup>*1</sup> エマージングマーケット・ファンドを100%組入れた場合の実質的な信託報酬率となります。各指定投資信託証券への投資比率が変動することにより、投資者が負担する実質的な運用管理費用（信託報酬）は変動します。</p> <p>信託報酬率およびファンドの信託報酬率の配分（年率・税抜）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>純資産総額<sup>*2</sup></th> <th>ファンドの信託報酬率</th> <th>エマージングマーケット・ファンドの信託報酬率</th> <th>実質的な信託報酬率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>200億円超 の部分</td> <td rowspan="3">0.26%</td> <td>0.77%</td> <td>最大で1.03%程度</td> </tr> <tr> <td>100億円超 200億円以下の部分</td> <td>0.82%</td> <td>最大で1.08%程度</td> </tr> <tr> <td>100億円以下の部分</td> <td>0.87%</td> <td>最大で1.13%程度</td> </tr> </tbody> </table> <p><sup>*2</sup> 各ファンドが投資するエマージングマーケット・ファンドの信託報酬率は、エマージングマーケット・ファンドの純資産総額に応じて定まります。</p>	純資産総額 <sup>*2</sup>	ファンドの信託報酬率	エマージングマーケット・ファンドの信託報酬率	実質的な信託報酬率	200億円超 の部分	0.26%	0.77%	最大で1.03%程度	100億円超 200億円以下の部分	0.82%	最大で1.08%程度	100億円以下の部分	0.87%	最大で1.13%程度
	純資産総額 <sup>*2</sup>	ファンドの信託報酬率	エマージングマーケット・ファンドの信託報酬率	実質的な信託報酬率												
200億円超 の部分	0.26%	0.77%	最大で1.03%程度													
100億円超 200億円以下の部分		0.82%	最大で1.08%程度													
100億円以下の部分		0.87%	最大で1.13%程度													
	監査費用	<p>ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。</p>														
随時	その他の費用・手数料	<p>組入保有証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。</p>														

❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドに関するお問合せ先	お申込み・投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は
ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 (9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く) ホームページ <a href="https://www.nam.co.jp/">https://www.nam.co.jp/</a>	野村証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第142号 加入協会：日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
野村信託銀行株式会社	